

プリクソスとヘレー

継子への強い憎しみ

2016年3月28日

太陽が春分点を過ぎると、おひつじ座の季節になります。おひつじ座の物語では、メインのキャストが二組あります。一つはプリクソスとヘレーの兄妹。もう一つはイーノーとメリケルテースの母子。

ボイオーティアという地域を治めるアタマースには、ネペレーという女性(または女神?)との間に息子と娘が一人ずついました。息子の名前はプリクソス。娘の名前はヘレー。ネペレーはどういう理由があったのか、アタマースの許から去って¹いきます。

更に、アタマースには三人目の奥さんがいた、という人²もいます。三人目の奥さんの名前はテミストーといいます。テミストーはイーノーに妻の座を奪われた³のを恨んで、彼女とアタマースとの間に生まれた子供たちを殺そうとします。

そんなことがあったからでしょうか。それともテミストーがいなくても、世継ぎを自分の子供にしたいと思ったからでしょうか。イーノーはプリクソスとヘレーを排除するように企てます。

イーノーはすべての主婦たちと談合し、種まきに使う麦をすべて炒ってしまいます⁴。こうしてしまうことで、いくら撒いても麦が目を出すことがありませんでした。更にこのことで神託を伺いにいった人たちを買収して、プリクソスとヘレーを殺すことで神意は宥められるということにしてしまいました。ボイオーティアの人たちは、アタマースにプリクソスとヘレーを犠牲に捧げるようにと迫ります。

この騒ぎを知ったネペレーは、子供たちを救うべく黄金の毛を持つ羊を救助に遣わします。プリクソスとヘレーは羊に乗って難を逃れますが、途中、現在のマルマラ海のあたりでヘレーは海に落ちてしまいます。それゆえに当時はこの海をヘレースポントス(ヘレーの海)と呼んでいました。

海に落ちたヘレーはどうなってしまったのでしょうか。そのまま死んでしまった、という人もいます。海の神であるポセイドーンが彼女を助け、神に愛されたという人もいます。

プリクソスはというと、黒海の奥地、現在のグルジア共和国のあたりでしょうか。コルクスという土地にたどりつきます。羊は神への捧げものとされ、その羊毛はコルクスで保管されることになります。

1 なぜ彼女が去ったのか、は謎です。アポドーロス、「ギリシア神話」、1.9.1にもネペレーとの間にプリクソスとヘレーをもうけ、二度目にイーノーを娶ったとしか書いてありません。

2 ヒュギーヌス、「神話集」、1

3 つまりテミストーが出てくる話では、最初がネペレー、二番目がテミストー、三番目にイーノーの順でアタマースの妻になっています。

4 アポドーロス、「ギリシア神話」、1.9.1；ヒュギーヌス、「神話集」、2

物語を振り返って

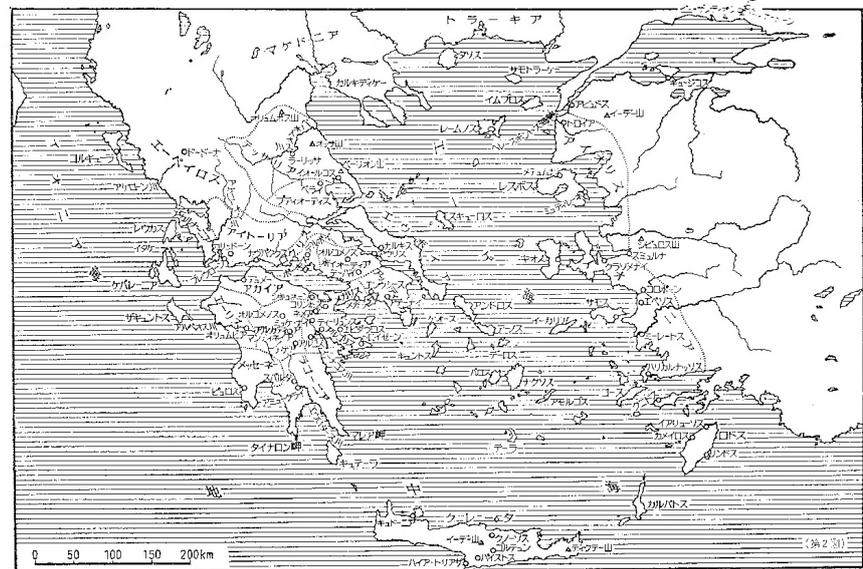
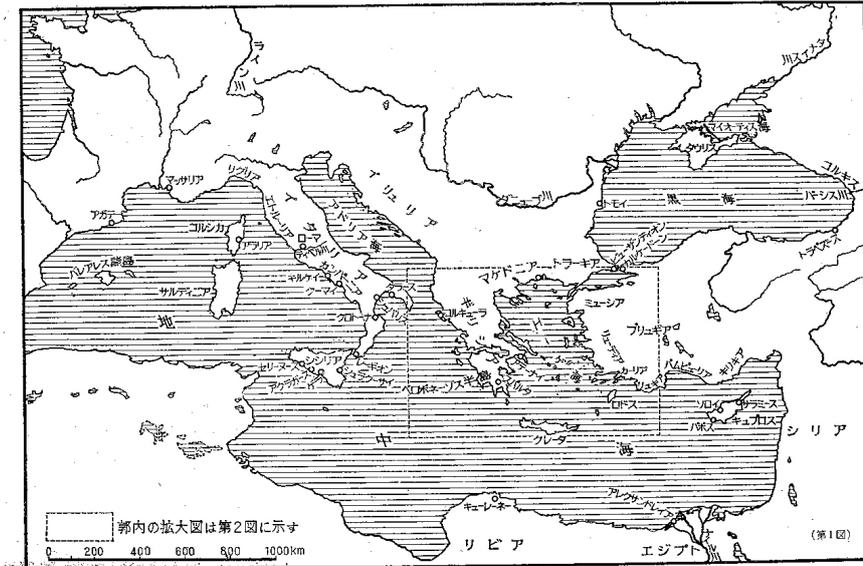
- イーノーは、なぜそれほどまでにプリクソスとヘレーを憎んだのでしょうか。

- なぜ、ボイオーティアの女性たちはプリクソスとヘレーを殺すようなたくらみに協力したのでしょうか。

- ご自身が他人の意見に流されて、他の知人が不利益になるようなことに同意したことはあるのでしょうか。

- それはどうしてそうしてしまったのでしょうか。どうであれば、もっともよい結果になったのでしょうか。

ありがとうございました。神話の世界を身近に感じてもらえますように。



ボツになった質問

- イーノーのように誰かを憎み、殺したいとまで思ったことはあった(または現在そう思っている)でしょうか。

- それはなぜ、そうならなければいけないと感じているのでしょうか。

- 本当に望む状態はどのようなものでしょうか。誰かを犠牲にしなくてはいけないようなものでしょうか。

- ネベレーは子供たちを残してアタマースの許を去ったのに、なぜ子供たちを救おうと思ったのでしょうか。

- アタマースは多くの妻を迎えましたが、何を望んでそうしたのでしょうか。